

る人

仕上人

糸取鍋、土瓶等で細工人の引いた素地を仕
上る人

窯たき人

窯をたく人

荷造人

製品を藁にて荷造發送する人

信樂として重要な人は細工人であつて主として大物細工師で土着の人多く十二歳頃より稽古に取掛り第一に植木鉢。湯姿で練習を積み最後に火鉢作りとなつて一人前となる。大物師なる故京都方面へ出稼するもその技倆が入れられないから郷土に止るより途無く従つて氣風は概して穩である。

賃金制度は主に日給である。

細工人	一圓二〇	仕上師	一、五〇
土屋	一、三〇	荷造人	一、九〇
はたき人	一、〇〇	ひでし人	〇、五五
窯たき人	一、三五		

(未完)

新著紹介

○原色日本鑛物圖譜

利田八重造・栗津秀幸共著

新著紹介

松邑三松堂發行 定價二圓五十錢

鑛物は自然界の一部で日常生活に密接な關係があるが、普通我等の動植物に比べてその知識のとぼしいのは、全くそれに接觸する機會が少いからである。本書は其缺陷を補はんものとして浦和高等學校の利田、栗津兩氏が蒐集された苦心の標本から常識的に知らねばならない限りの日本産鑛物を明瞭な圖版にし、摘要の解説を加へて出版されたもので、プレートの数五六、索引づき、解説も加へて四六版の手順な本である。我等はこれらの圖版と解説によつて、従前未知の世界であつた土地に誘ひ出される幸福に醒めさせられるのを喜ぶ。

(藤田)

○見たり聞たり

中村清二著 古今書院發行
定價一圓八十錢

東大物理學の中村清二教授の作品で、地理學や氣象學に關して出された隨筆又は小品を集められてゐる。鹿教湯、俵山温泉、發咄温泉など温泉の話もあれば、ウキルン山觀測所での星の話もあるかと思へば、池水面の虹の話もある。伊豆大島の話などはまことに文學者もとても及ばぬ妙文である。ナポリに近い田舎の婦人の親切さに感心もすれば、京都離宮、龍安寺の庭、壬生の狂言などの感想文もある。輕快洒落、しかも微に入り細をうがつた觀察録とでも云ふべきである。筆者はこの書を手にして巻を離さずに讀みふけた、京都に居ながら、京都の風景を新たに教えられた程にシヨツクをうけ

六九

六九

た。近頃の讀本のうちで、最も面白かつた隨筆の一として之を推奨する。(藤田)

○現代支那概論

矢野仁一著 目黒書店
定價二圓三十錢

矢野先生の支那に關する論文である。徳治主義の理想が亡んで、共和の實力のない共和國が出来てゐることを明快に論述されてある。支那はどうなるかといふことは一葦帶水の我國に重大な影響がある。我等は眞の支那、動かざる支那を明に察知しなくてはならない、該博な先生の論鋒は鋭利な寶刀の如く不可解な支那を解剖して餘す所がない、我等は先生のこの書に教えられて、支那を見直すと共に、支那が覺醒して正しい力の強い國に更生するやうに指導しなくてはならぬと思ふが、果してさうした時が来るかどうか、王道政治の理想はあまりにも高遠にすぎてゐると考へさせられるのが慨かかしい、いづれにしても我國の人々は支那を正視しなくてはならぬ、さうしてそれが日本の國策に一大根據を與へるものだと思ふ(藤田)

○最新大日本地理精義上巻

小林房太郎著
南光社發行 定價八圓

昭和六年の發行を十一年四月訂正再版されたが、再版は根本的に訂正したのではないから新しく膨脹した大都市の記事、東京市でも全く昔のまゝにしてある。挿圖も古くて汚ない。かうした書に最新といふ標題はどうかと考へる、訂正も

するなら徹底的にやつてもらひたい。(藤田)

○經濟地理學要義

田中秀作・田中博 共著
地人書館刊 定價二圓二十錢

本書は彦根高商田中秀作教授及び神戸高商田中博教授の共著になり、高商の教科書用として編纂されたのであるが、同時に一般經濟地理學研究者の參考書たらしめんとする著者の意圖もそれに含まれてゐる。

先づその構成の大體を述べると本書は第一章經濟地理學の本質と職能、第二章經濟地域論、第三章生産地理、第四章商業地理、第五章交通地理、第六章人口の分布と移動の六章から成つて居り、最後に附録として經濟地理學一般參考文獻が多數擧げられてゐる。

第一章經濟地理學の本質と職能に於ては先づ經濟地理學がその一部門をなす人文地理學の發達を述べ、次に經濟地理學に就いてその史的な叙述が簡單になされてゐるが、その場合經濟學者の思想に對しても顧慮が拂はれてゐる。最後に經濟地理學の本質と職能が規定されて、それに關する主要な經濟地理學者の見解が掲げられてゐる。

第二章は經濟地域を論じたものであつて地域の設定には歸納的方法と演繹的方法の二つあることが述べられ、その後者に就いて地域設定法の主要なものが擧げられてゐる。

第三章生産地理は序文でその取扱ひを簡單にし、商品學或は商品地理學の教授に委ねると述べられてゐるが、尙百頁近

い頁數を取り、各章の中で最も廣い紙面を占めてゐる。最初に生産立地に關する一般的な理論が解説されて居り、その後で農業、林業、牧畜業、水産業、鑛業、工業、の各生産部門に就いての叙述がなされてゐる。それは先づ各生産部門の定義に始まり、次に當該生産部門と自然並びに文化環境との關係或はその技術的發展が簡単に記述され、最後に各論として重要な商品に就いてその生産事情が述べられてゐる。

第四章では商業地理が取扱はれて居り、消費、商業、市場外國貿易の順序で述べられてゐるがその重點は外國貿易に置かれてゐる。

第五章交通地理では最初に交通一般に關する概説が述べられ、次に陸上交通路、水上交通、港灣、空中交通の順序で記され、その際には主要な交通路も叙述されてゐる。

最後の章は人口の分布と移動の記述に費され、人口の分布人類の居住、移動が扱はれてゐる。

既に述べた如く本書は主として高等商業學校の教科書とする目的で編纂されたのであるが、在來のかうした種類の經濟地理書と比較して本書の有する特色を二、三述べて見よう。

第一に挙げられる特徴はその内容が極めて解り易く書かれてゐることである。併しこのことは決してその内容の水準が低調であることを意味するのではない。却つて解り易いことこそ教科書を持つ重大な使命の一つであつて、殊に難しい理論や學說が理解の爲に平易化されてゐる點は本書の持つ長所

の一つであらう。又書中に掲げられた統計表、地圖類は他から借りて來た場合すべてその出所が明かにされてゐる。これは當然のことではあるが、從來の地理書にはそれを缺くものが多かつた。その意味で本書はその良心的な點を充分認められて良いと思ふ。更にその叙述が教科書として煩に過ぎず、適度に要領良くなされてゐることも取り上げられて良いであらう。要之本書は高等商業學校或は廣く専門程度の學校の教科書として、及び經濟地理學の入門書として充分推賞に値する書物であると考へられる。

終に尙本書に就いて若干の希望を述べて見よう。本書に掲げられた地圖の中で外國書から取られたものは原語がその儘使用されてゐるが、地圖が縮少された爲讀み難いものが可成ある。これは邦語に翻譯する方が良くはなかつたであらうか。生産地理の章に於て鑛業は工業の中に含ませるのが妥當ではなからうか。又工産各論に於ては主要製品に尙若干のもの（例へば重工業等）を加へる必要がなからうか。本書の全體の構成並びに扱はれてゐる理論に關しても尙論じ得る餘地があるかも知れないが、併しそれは望蜀の謫を免かれないうであらう。（安藤）

雜 報

○錫蘭の寶石

金剛石・エメラルド・オパールの外の寶